

## 「ありが10（とう）の日」に関する学校評価について

[学校自己評価について 平成27年12月実施]

○ 一人一人のよさを認め合うとともに、互いに「あったか言葉」を掛け合い、思いやりの心を育てていきます。			[学校自己評価]			
			4	3	2	1
心 プ ロ ジ エ ク ト	①	☆ 明るくさわやかなあいさつの励行 「相手の顔（目）を見て、笑顔で、明るくハキハキと」挨拶	5	1 6	0	0
	②	☆「ありが10（とう）」の日の設定	1 2	9	0	0
	③	☆ 自己肯定感を高める「あったか言葉」の励行 あったか言葉（自分が言われて嬉しくなる言葉・優しい言葉）	7	1 2	2	0
	4	☆ いじめの防止や命の大切さを伝える授業の実施	9	1 0	2	0

[感謝の気持ちを育む「ありが10（とう）の日」の取り組みについて]

### ① 平成27年度の校長講話等について

#### ○ 感謝の大切さに関する講話を実施

9月14日（月）命のつながりに感謝しよう

12月14日（月）ありがとうの作文「心のバトンパス」を紹介

2月29日（月）ありがとうは自分を変える言葉

#### ○ PTA新聞でのお知らせ（下記を参照）

平成27年度 PTA新聞7月号 [ありが10（とう）の日の取り組みについて]

### 「ありがとうは魔法の言葉」

子どもたちに、あったか言葉の中でも、特に感謝の言葉を意識してほしい。そんな願いから、月初めの10の日を、「ありが10（とう）」の日としました。

感謝の言葉は、言われた人の心を明るくさせてくれます。また、言われた人は、この言葉をだれかに返そうとするそうです。

このように、「ありがとう」という言葉は、良好な人間関係づくりに役立つとともに、情緒安定の要素（愛情・受容・承認の要求）を充足する魔法の言葉とされています。

子どもたちの自己有用感の育成を目指し、魔法の言葉を掛け合っていきたいと思います。

（PTA新聞 校長原稿より）

② 平成27年度の全校的な取り組みについて

「ありが10(とう)の日」の実施について



- (1) ありがとうの手紙を書いて、自分の気持ちを伝える活動をする。
- ① 毎月1～9日にありがとうの手紙を書くよう呼びかける。
  - ② あったかポストに入れる。
  - ③ 毎月「ありがとうの日」に昼放送で、何本か発表する。(放送委員)
  - ④ 集めたカードは、担任から手渡す。
- (2) 職員から、体験談や書籍、テレビなどで感動した「あったか話」を募集し、その中から数例を「ありが10の日」の朝の学習タイムに、学年に応じて話をする。
- (3) 人権週間(12/3～10)に、これまでに児童から集めたありがとうの手紙をつかって、ありがとうの木をつくり、掲示する。

[実施結果について]

- 実施日 6/10(水)、7/10(金)、9/10(木)、10/9(金)、11/10(火)、12/10(木)、2/10(水)、3/10(木)
- 平成27年度 ありがとうの手紙について

月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
枚数 (児童間のみ)	—	115	—	/	140	147	—	148	—	224	319

- ありが10(とう)の日の週間への学校評議員・教職員・保護者等の意見
  - ・ ありが10の日の手紙のやりとりが毎月いくつかあり、クラスの子にいい機会になっている。
  - ・ ありがとうの手紙は人気者に手紙が集中してしまい、見えない所でみんなのために動く子がもらえないこともある。毎月の実施なら「今月はとなりの席の子へ」など全員が公平にもらえる工夫が必要だと感じた。
  - ・ 心に残ったことを書くのもよいが、感謝の気持ちをもって相手を見つめる姿勢も大切だと思う。「ありが10の日」の設定、手紙の取り組みはよかったと思います。
  - ・ ありがとうの内容の価値付けをすることが大切だと思う。(例えば、自分がしてもらったこと、助けてもらったことへの感謝する段階から、毎日継続してみんなのために活動していること、みんなのために頑張ろうと努力していること、だれも気付かないところをカバーしてくれたことへの感謝を称賛する段階へ)
  - ・ 感謝の気持ちをもつは大変よいことだと思う。人が言われることで前向きな気持ちになれると思う。「ありがとうと言える人に」まずしていくことから、始めればよい。その後、「ありがとうと言われる人になろう」として、努力する子どもたちが多くなるのではないかと思う。
  - ・ 言われなくても日々みんなのために努力し続けている人にスポットがあたるようにしてほしい。